

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的 に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 広報活動を充実して後期課程の入学者の確保に努め、必要があれば定員の見直しを行う。	→後期課程の定員充足率。後期課程進学状況。	C
2. 入試形態ごとの学生の受け入れ方針を明文化し、社会に周知する。	→受け入れ方針を明記した各入試の募集要項やホームページ。	B
3. 学生の受け入れ方針を定期的に検証する大学院委員会を設置し、問題点があれば改善していく。	→大学院委員会設置の有無、当該委員会の開催回数、検討改善の状況。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目5.0.1	(方針) 学院ホームページや募集要項を通して学生の受け入れ方針を明示する。 (現状説明) 「求める学生像」は現在検討中である理工学研究科のアドミッションポリシーに記述し、学院ホームページ上に掲載する予定である。 「習得しておくべき知識等の内容」に関しては、試験科目や出題範囲の形で募集要項に記載されている。 「障がいのある学生の受け入れ方針」は理工学研究科としてはまだ明示されていない。
☆	小項目5.0.2	(現状説明) 学生募集方法、入学者選抜方法に関してはおおむね適切であり、他大学出身者、社会人、外国人など多様な学生を受け入れている。現在9名の外国人、6名の社会人が在籍している。また2010年度入学者選抜においてその年の国立大学卒業生が入学するなど、外部に開かれた学生募集が実行されている。透明性は詳細な入試データを公開することで、その目的を果たしている。
☆	小項目5.0.3	(現状説明) 収容定員に対する在学生数比率は2010年度入試では研究科全体で0.94であり、ほぼ定員と一致している。研究科ごとでもすべて1.3倍以内である。 後期課程については研究科全体で0.42と定員割れ状態が改善しておらず、引き続き後期課程の学生確保に向けた努力が必要である。
☆	小項目5.0.4	(現状説明) 学生募集および入学者選抜に関する定期的な検証を目的とした委員会は未だ設置されていない。現在設置準備中である。
☆	その他	(現状説明) 大学院の広報活動として大学院入学希望者を対象にオープンキャンパスを毎年度開催し、近隣大学への広報も行っている。

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

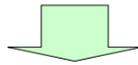
【理工学研究科】		前期/後期課程	単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	33.3%	42.1%	30.7%	34.7%	49.6%	一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		75.0%	72.7%	33.3%	80.0%	87.5%	
指標2	志願者総数	前期課程	人	206	135	149	144	152	
		後期課程		9	12	9	10	8	
指標3	志願者倍率	前期課程	%	167.5%	109.8%	121.1%	108.3%	114.3%	志願者÷入学定員
		後期課程		47.4%	63.2%	47.4%	52.6%	42.1%	

注) 指標2, 3について入学定員の変更あり。
2005年度まで前期課程43名、後期課程10名、2006年度より前期課程123名、後期課程19名

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



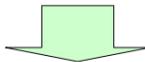
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	「障がいのある学生の受け入れ方針」は理工学研究科としてはまだ明示されていない。
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	後期課程の学生の定員充足については、引き続き確保に向けた努力が必要である。潜在的な進学希望は存在しており、終了後の研究職就業に関する不安など進学を阻害する要因を解消する必要がある。
小項目5.0.4	学生募集および入学者選抜に関する定期的な検証を目的とした委員会は未だ設置されていない。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	「障がいのある学生の受け入れ方針」を明示する。
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	就学支援や奨学金等の整備を引き続き行い、社会人が博士課程に入学しやすい環境を整備する。また、博士研究員や任期付き研究職採用などポストの確保、終了後の研究職就業支援体制の充実など、総合的な取り組みを行う。
小項目5.0.4	学生募集および入学者選抜に関する定期的な検証を目的とした委員会を早急に設置し、定期的に検証を実行する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述) 理工学研究科で行われている先端研究の社会に対する広報を充実させ、当研究科が先端科学研究を遂行する研究大学院であることの魅力を内外の学生にアピールすることが重要である。そのためにも研究内容の充実が肝要である。

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○後期課程の学生数増員のための施策、学生募集の委員会設置などの方針はまさに記述の通りであり、今後その積極的な推進が期待されます。

【学内委員】

- HPに記載の入試要項では、出願資格を記してはいますが、「習得すべき知識等の内容」とまでなっているのでしょうか。
- 後期課程の充足率に関して現状や改善すべき事項でも説明されており、問題として把握されていることを評価します。その改善に向けた取組に期待します。
- 一般的な学生の受け入れ方針については適切に明示されており、評価できます。
- 障がいのある学生の受け入れ方針については、現在その策定が順次進展しています。
- 受け入れ方針の検証については、評価のための委員会が設置準備中で、早い段階での立ち上げがまず望まれます。
- 博士後期課程の定員充足率は50%を下回っており、この点に関しては、早い段階での改善が求められます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保—入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

<個別的な指標>
